

お わ り に

新種のクジラの化石で話題になっている生命の海科学館にある生涯学習課へ、本庁6階の学校教育課から青少年センターが移動した。そして、子ども若者相談窓口が6月8日に開設され、それまで館長室であった部屋に待望の相談室が設置された。さらに人員も1名増え3名体制となった。青少年センターの場所も業務内容も人員も大きく変わった1年となった。機構改革と言えばそれまでだが、大きな変化である。科学館的に言えば大きな進化であり、さらに進歩させていきたいものである。

これまで、センターの業務に係わる対象者の中心は、義務教育の児童生徒であった。それが、相談業務の開設に伴い、年齢的に大きく変わった。相談窓口の支援対象者は、40歳未満の社会生活を円滑に営む上での困難を有する方であり、いわゆる不登校やニート・引きこもり等である。対象となる年齢の幅は広がったが、取り組む姿勢は今までと同様である。

本市には、それまでの多くの方により積み上げられてきたすばらしい青少年の健全育成に係わる実績や伝統がある。その一例が、7中学校区ごとに開かれる健全育成協議会であり、その中核となる地域ふれあい活動である。子どもたちに常に地域を意識させ、見守られているということを意識させている。地域ふれあい活動では、本冊子で報告されているとおり、48の各地区の総代さんを中心に進められている。さらに、PTA役員や子ども会役員が実行委員となり、地域の子どもたちが地域の大人たちと触れ合う機会となっていることもうれしい限りである。内容もその地域の状況によって様々であり、地元の子どもたちが楽しく参加できるよう工夫されたものも多く見られた。特に、中学生が積極的に活動を盛り上げようとしている会場も多く、青少年の健全育成のみでなく、地域の絆を深めるよい機会であった。今後も内容等の吟味がなされ、よりよいふれあい活動が継続して開催されることを期待したい。そして、現状に満足することなく、目の前の児童生徒をはじめ多くの若者に対して、実態に即した地道な対応をしていきたいものである。

生命の海科学館には、インカクジラをはじめとして、地球や生物の進化の歴史を見ることのできる多くの貴重な資料が展示されている。また、ワークショップや各種イベントが開催され、積極的に学ぼうとする方々が多く来館している。科学館同様にそのような意欲的な姿が、市内各地域に、各家庭に、各学校に増えれば最高である。

最後に、本年度も青少年健全育成に関わる多くの方々のご尽力により、様々な育成活動が展開できたことに、改めて感謝申しあげたい。

平成29年2月

蒲都市青少年センター

高 橋 茂

＜表紙のマーク＞

平成 22 年度一般公募により決定した蒲郡市青少年健全育成地域活動のシンボルマークです。

水色は蒲郡の美しい海、オレンジは若さ明るさをイメージし、「地域の人々の手で明るく青少年を守ろう」のコンセプトで作成されています。

発行日 平成 29 年 2 月 1 日

発行 蒲郡市教育委員会

編集・印刷 蒲郡市青少年センター

〒443-0034 愛知県蒲郡市港町 17-17

生命の海科学館内

電話 0533-66-1168

製 本 親和原田プリント(株)